

『未来への宣言』

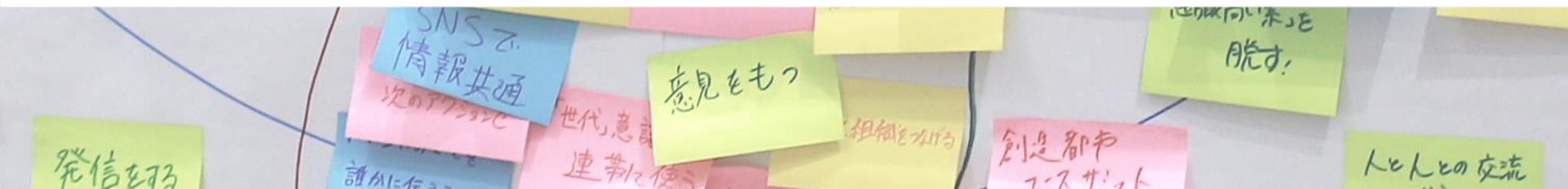
今、ユースの私たちがユネスコと共にすべきこと ～気候変動をテーマに～

次世代ユネスコ国内委員会・

UNESCO WEEK 2024 ユースフォーラム 参加者一同



2024年3月4日



『未来への宣言』
今、ユースの私たちがユネスコと共にすべきこと～気候変動をテーマに～

本宣言の位置付け

次世代ユネスコ国内委員会では、今後の社会を担っていく10代、20代のユース世代が、分野横断的に協力しあい、自発的に気候変動問題の解決に向けてそれぞれ活動に取り組んでいけるよう、ユネスコにおけるユースの役割と意義について議論を重ねてきました。次世代ユネスコ国内委員会委員と関わりのある玉川大学、奈良教育大学、臼杵高校、長岡科学技術大学など、各地の高校・大学のユネスコ部・ユネスコクラブの学生と連携し、気候変動をテーマに、私たちが望む日本の未来について、そのために私たちが個人でできる活動、もしくはユネスコと協力してできる活動について、年度を通してディスカッションを行ってきました。

2024年1月21日、ユネスコウィーク2024の一環として開催されたユースフォーラム「ユースによる『未来への宣言』～ユネスコ活動から考える気候変動～」では、ユネスコ活動を通じて気候変動問題に取り組んでいるユース世代の出会いの場を設けるとともに、多様なユース世代の気候変動に対する関心の向上と促進を目的とし、教育・科学・文化の分野ごとに登壇者をお呼びして、ユース世代の役割について考えました。

教育は「気候変動問題への対応と持続可能な開発のための教育（ESD）の活性化」、科学は「科学コミュニケーション:気候変動対策への活用方法」、文化は「地球に優しい生き方を考える場としての『創造都市』の価値」というテーマのもと、ユネスコスクール関係者、研究者、ユース環境活動家、ユネスコ創造都市関係者、日本ユネスコ国内委員会広報大使など、幅広いバックグラウンドを持つ登壇者とともに、気候変動問題に関する現時点での課題と、その解決における各分野のユネスコ活動でのユースの貢献と役割を議論しました。その後、『未来への宣言』策定に向けたワークショップを実施し、各分科会のパネルディスカッションで聞いたこと、考えたことを共有しました。

本宣言には、気候変動問題と向き合うために私たちがユネスコと共にやっていくことが明示されると同時に、他のユースに議論の輪が広がってほしいという私たちの想いがこもっています。Appendixにワークショップの再現方法とユースフォーラムで出てきた意見をまとめていますので、是非読み手の皆さんも、自分たちの「宣言」を創ってみてください。その「宣言」に次世代ユネスコ国内委員会が協力できることがあれば嬉しいです。

なお、本宣言は次世代ユネスコ国内委員会が取りまとめましたが、ユースフォーラムに参加いただいた様々な若者と共にディスカッションを重ねて策定されたものです。そのため、宣言者は次世代ユネスコ国内委員会とユースフォーラム参加者のユース一同とします。

2024年3月4日（現在）

次世代ユネスコ国内委員会・ユースフォーラム参加者一同

『未来への宣言』

今、ユースの私たちがユネスコと共にすべきこと～気候変動をテーマに～

自分たちの未来のために、私たちは次のように活動していくことをここに宣言します。

教育：『持続可能な社会の創り手として、ユース（若者）から気候変動に対するアクションを起こすために、ユース同士だけでなく全世代での対話の機会を設けていきます。』

科学：『産学両方の研究者、及び世界自然遺産・ユネスコ世界ジオパーク・ユネスコエコパークの関係者と協働し、日本のハイテク技術を活かした環境保全、またその必要性に関する対話を進めていきます。』

文化：『ユネスコ創造都市ネットワーク関係者と共に、日本各地の独自性と創造性を生かし、より地球にやさしい文化の保全、創造と定着、発信に尽力します。』

(参考) 『未来への宣言』策定に向け、「今、10代、20代の私たちが望む30年後の日本」というお題で意見を出し合った結果の一部*

日本産の美味しい緑茶が飲める日本	いつまでも春に満開の桜の下でお花見できる日本	高校生たちが夏の甲子園で体調崩さずに決勝戦ができる日本	すすいどこでも電気バイクで旅行できる	自然災害への対策と防災に関する知識とノウハウを他国への支援とメンタリング	今と変わらず北海道の川に鮭がたくさん遡上している	地元江戸川区が存在する
人間と自然(野生生物とか)が共生できる社会	紅葉が綺麗な山でハイキングできる	おじいちゃん、おばあちゃんたちの一番の亡くなる原因が熱中症でない日本	台風などの天災の被害(人間にも自然・文化遺産にも)が今よりも少ない社会	防災・減災、再エネ先進国として、外交力を発揮し、国際協調を推進する日本	各地で野鳥がみられる日本	伝染病や感染症の心配が今以上になくていい社会
おいしいチョコレートが食べられる日本	さんまとかまぐるとか、将来もおいしい魚が食べられる!	空気が綺麗な日本	環境難民の人たちと共存できる世界	気候変動について知らなくても安心して暮らせる	各地域に多様な魅力が溢れ、世界に発信され続ける日本	一次産業が盛り上がっている

*次世代ユネスコ国内委員会、玉川大学、奈良教育大学、臼杵高校、長岡科学技術大学など、各地の高校・大学のユネスコ部・ユネスコクラブのユースで、私たちが望む日本の未来について考えました。

Appendix 『未来への宣言』 策定に向けたワークショップ

ユースフォーラムで開催した『未来への宣言』策定に向けたワークショップでは、教育・科学・文化の各分科会によるパネルディスカッションに参加した後、ユース参加者同士で、各自考えたこと、今後の自分の活動について、意見交換を行いました。より議論の輪が広がっていくように、下記にそのワークショップの再現方法を載せています。是非、今読んでいる皆さんも友人や知り合いと一緒にワークショップを開催してみてください！

1. ユースフォーラムで開催したパネルディスカッションのアーカイブ動画があるので、リンク（もしくはQRコード）からアクセスして視聴してみる。（もし可能だったら、教育、科学、文化の三つのグループに分かれて、グループで別の動画を視聴する）



2. パネルディスカッションの動画をもとに、下記の問いについて、各自で考えてみる。
 - a) 気候変動の問題と向き合うために、あなた個人でできることは何だろう。
 - b) あなた個人じゃ難しいかもしれないけれど、誰かと協力したら、できることはあるかな。考えてみよう。

3. 2で考えたことを他の人と共有してみよう

1人の場合

ジャムボードに自分の考えたことを貼ってみよう。

[ジャムボード](#) (QRコード)



三つのグループに分かれて動画を視聴した場合

他のグループの人と共有してみよう。

- a) それぞれ自分のグループで視聴したパネルディスカッションについて説明する。
- b) 2で考えたことを他のグループの人と共有してみよう

4. 出てきたアクションや意見が、マップ（次のページ）のどこに当てはまるか、考えよう。
5. 最後に、自分たちが気候変動問題と向き合っていく上で活動していきたいことを「宣言」しよう！

『今、ユースの私は、気候変動問題と向き合っていくために、_____。』

Appendix 『未来への宣言』 策定に向けたワークショップ 意見マップ

ユースフォーラムで開催した『未来への宣言』策定に向けたワークショップでは、教育・科学・文化の各分科会によるパネルディスカッションに参加した後、ユース参加者同士で、各自考えたこと、今後の自分の活動について、意見交換を行いました。下記はその時に出てきた意見をまとめたマップです。是非、読み手の皆さんも、前のページを元に自分の意見が下記のマップのどのあたりに追加できるか考えてみてください！

-凡例- : 各分科会における議論のサマリー | : ワークショップで出た意見をグループ分けしたもの

